

那須塩原市議会 「公明クラブ」 行政視察報告書



視察日：平成30年 8月7日（火）

- I 視察地：岩手県紫波町 オガール紫波
内 容：オガール紫波について

- II 視察地：岩手県滝沢市役所
内 容：議会による広聴に関する取り組みについて

参加議員： 星野 健二 星 宏子

オガール紫波について

視察地 岩手県紫波町オガール
視察日 平成 30 年 8 月 7 日
氏 名 星 宏子

「オガールプロジェクト」は補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進めている。計画により、駅前町の有地 10.7 ヘクタールを中心に、ホテルやバレーボール専用体育館、図書館、カフェ、産直マルシェなどが入居する施設が軒を連ねる。

オガールプラザは、延べ面積 5800 平方メートルの 2 階建て建築。1 階中央には、紫波町図書館と町役場がある。1 階にはカフェなどの飲食店、眼科、歯科の民間テナントが入居。2 階を上がると、メインは音楽スタジオやアトリエスタジオ、市民ギャラリーが併設されている町の「交流館」。紫波町の子育て応援センター「しわっせ」や民間の学習塾も入っている。

このプロジェクトは、2009 年に策定した「紫波町公民連携基本計画」に基づいて進められている。

基本計画のなかで紫波町が抱える課題として、若い世代の人口流出や商店街地区の活性化、子育てしやすい環境、雇用の確保などが指摘され、解決策として新たな町づくりが提言され、「公民連携」で導入された。オガールプラザはテナントを固めてから、建物の規模や建設費用を算出。建設費用のコストカットのため、特別目的会社がオガールプラザを約 11 億円で建設。その後、公共施設部分を紫波町に売却した。売却した費用以外は、東北銀行の融資や町と政府系金融機関の出資で賄った補助金に頼らない町づくり。民間で建て公共施設部分を区分所有で町が買うという形で、コストの適正化をはかっている。「PPP、PFI の公民連携は、アメリカで始まった考え方。公共事業は補助金からスタートする。民間は銀行の存在がいるから経費が節約できる。

また「オガールタウン」は「紫波型エコ

ハウス基準」を設け、住宅の分譲をしている。その住宅も完売している。

駅を降りると目の前に広場が広がり、休日にはイベントや町民が集まる場としてにぎわいを見せるとのこと。

本市においても公共施設を建設する際、綿密な計画と確かなビジョン。まちづくりのストーリーを描きながら取り組むべきであり議会としてもしっかりと審議すべきである。



滝沢市議会における議会報告会、 市民議会、政策検討会について

視察地 岩手県滝沢市役所
視察日 平成30年8月7日
氏名 星 宏子

滝沢市の概要

滝沢市は、盛岡市の北西部に位置し、東西約14km、南北20km、総面積182.46km²。平成14年に行政経営理念を制定。平成17年3月には住民の暮らしに着目し、住民協働で第5次滝沢市総合計画を制定。「人と人、人と地域、人と自然が共栄し、生き生きと幸せ輝くたきざわ」を10年後の将来とし各種施策を展開している。これまでの自治への変革にむけた独自の活動が着実な成果をあげていることに高い評価を受け、2006年度日本経営品質賞地方自治体部門を受賞した。議会として議会情報の積極的な発信を行い、住民に開かれた議会として意欲的に議会の活性化に取り組んでいることに高い評価を受け、平成21年度町村議会特別賞を受賞した。平成27年11月には、政策提言型議会の実現を目指した一連の取り組みが評価され、第10回マニフェスト大賞優秀成果賞を受賞した。

議会フォーラムについて

フォーラムは、これまでの議会活動や7月の市議会選挙に向け、新しく立候補する方にも議会の情報を周知してもらいたいことから開催。ワールドカフェ方式で実施し、市民101人が参加。滝沢市議会アドバイザー 山梨学院大学 法学部 江藤俊昭氏、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員 佐藤淳氏 の基調講演の後、議会について感じることや期待すること、議員定数、議員報酬をテーマに20グループで議会の望ましい姿について様々な意見交換を実施した。

周知方法は平成26年に町から市制移行に際し、市内各種団体が機運醸成を目的と

した実行委員会を立ち上げたことから、この各種団体に対して案内文書を送付して周知を図った。

準備運営等で苦勞した点は、「議員報酬増額」の話題につながるため、単なる報酬増額の説明に受け取られないように配慮したところである。

所管…滝沢市議会改革推進会議

議会報告会「おでんせ会議」について

報告を中心に実施していたが、意見交換に時間を増やすようになった。参加者が固定化してきていることが課題。地域課題を優先にしていいため自治会長と話し合い報告会の在り方を模索するようになった。ワークショップ形式か学校形式か時間なども自治会長とともに決め住民への連絡も依頼している。

議会としてはホームページ、議会広報、ポスター、回覧により周知。

2018年5月から6月 参加者数 255名 会場 14か所にて

所管…広聴常任委員会

市民議会について

議会への市民参加の一環として、議場にて「市民議会」を滝沢市議会市民会議実施要綱を策定し開催している。対象は滝沢小中学校に通学する児童生徒。新成人等の同じ年齢または年代の市民。その他一定の条件を満たす市民。となっている。

市議会議員が説明および答弁側となっている。29年11月に干支議会を実施。西年生まれの10代から70代の市民の方に参加していただき滝沢市の夢と希望を発信していただいた。

以上様々な広聴活動をして、市民の声を一つでも多く集めチーム議会として市、地域の課題解決のために取り組んでいる。

こうした活動から集められた意見を集約・分類して各常任委員会で調査し、その

内容をもとにして一般質問などで市の考えを問い、大勢で議論して市へ施策を提言している。

具体的には各常任委員会において取り上げられた意見や課題を予算に関わる3月議会で修正がかけられるようにしていきたい。

また、議会評価を実施して自らの議会としての機能が果たしているのか評価している。評価見直しをすることにより今後進みべき方向性を明らかにしている。

広報広聴

以前は広報広聴は一緒の委員会であったが、広報誌を刷新し発行回数も4回から6回に増やしたことにより、広報と広聴をわけた。

今回、滝沢市を視察し大変に参考になった。報告会も参加者数が固定化しているのが課題であるが、市民の声を聴いて政策提言し執行部へ働きかける。

自治会長とも議会報告会を開催するにあたり綿密に打ち合わせをして、地域の実情に合った内容で報告会を実施。また、報告会等で市民からの声や意見を常任委員会に割り振り調査し、その結果を市民に返すサイクルができていることから、議会がテーマを決め報告会を開催し市民の意見を聞く本議会の方法と逆であることに気が付いた。

報告会は広聴を中心に課題は市民の声から拾い上げる議会の評価を自ら実施して方向性を確認し、それを市民に広報通して伝える。といった議会としての役割を議員が議論を重ねて作り上げていることは那須塩原市議会も参考にしていけるべきである。